

はままつし
静岡県浜松市

しろ やま 遺 跡
城 山

(2005b)

2005年12月

浜松市教育委員会

財団法人 浜松市文化振興財団

例 言

1. 本書は東海旅客鉄道株式会社敷地内の地下給油タンク取替工事に先立ち、静岡県浜松市若林町地内で実施した城山遺跡の発掘調査報告書である。(教文 第611号 平成17年7月15日付)
2. 本書名は、城山遺跡における2005年に行われた発掘調査が2件目であるため、『城山遺跡 (2005 b)』とした。
3. 調査に係る費用は、東海交通機械株式会社が負担した。
4. 調査期間 契約期間 2005年7月28日～同年12月10日 (契約日2005年7月27日)
現地発掘調査 2005年8月8日～同年8月12日
整理作業・報告書作成作業 2005年8月12日～同年12月10日
5. 調査面積 約45m²
6. 調査体制 調査指導機関 浜松市教育委員会 生涯学習部生涯学習推進課
調査担当者 鈴木敏則、村松聡一郎(浜松市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課)
補助調査員 野末亮、戸塚洋輔(浜松市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課)
事務担当者 森脇里枝子、中嶋陽子(財団法人 浜松市文化振興財団)
7. 本書に係る整理作業及び執筆は、村松聡一郎が行った。
8. 調査記録に係わる諸記録及び出土遺物は、浜松市教育委員会が保管している。
9. 標高値は海拔を示す。調査区の位置出しは、既存建造物及び境界杭から行った。

1. はじめに

位置と環境

城山遺跡は、浜松市東若林町を中心に若林町・南伊場町にまたがって立地している。(第1図) 浜松市南部の海岸平野には、現在の中田島砂丘を含めて、8条の砂丘列が確認されている。約6,000年前をピークとする縄文海進の後、海水面が低下し始め、少なくとも第1～3砂丘は5,000年前には形成された。最初に形成された第1砂丘は、三方原台地の直下にあり、現在ここに雄踏街道が通っている。その南側に位置する第2砂丘は途切れながら認められている程度であるが、部分的には、標高が3.0mに達する所がある。この第2砂丘上に城山遺跡と伊場遺跡は立地する。

過去の調査

城山遺跡は、1949年に國學院大学が伊場遺跡に関連して行った試掘調査により、その存在が明らかとなった。そして、1977年には遺跡周辺の市街地化に伴い、埋立工事が計画されたため、旧可美村教育委員会によって発掘調査が行われた。この調査で木簡・墨書土器・唐三彩陶枕などが発見され、脚光を浴びる遺跡となった。さらに、その後も発掘調査が行われ、城山遺跡の全体像が次第に明らかになった。(第2図)

こうした発掘調査を通し、木簡や墨書土器などの官衙関連遺物を多く出土した伊場大溝は、北西方向に直線的に伸び、その南側に城山遺跡が、その北側に梶子遺跡が広がっていることがわかった。弥生時代については、砂丘の高まりに中期を中心とした方形周溝墓群や土壙墓群が検出されるなど、城山遺跡は墓域であることが明らかとなった。また、古代においては、城山遺跡は伊場遺跡の西部地区と連続した遺跡だったことが予想され、遠江国敷智郡衙に関連する遺跡であることが考えられる。また、中世においては、方形に巡ると考えられる濠が検出され、中世の豪族居館であった可能性が高い。このように、城山遺跡は弥生時代～中世に至る複合遺跡であることが明らかとなった。

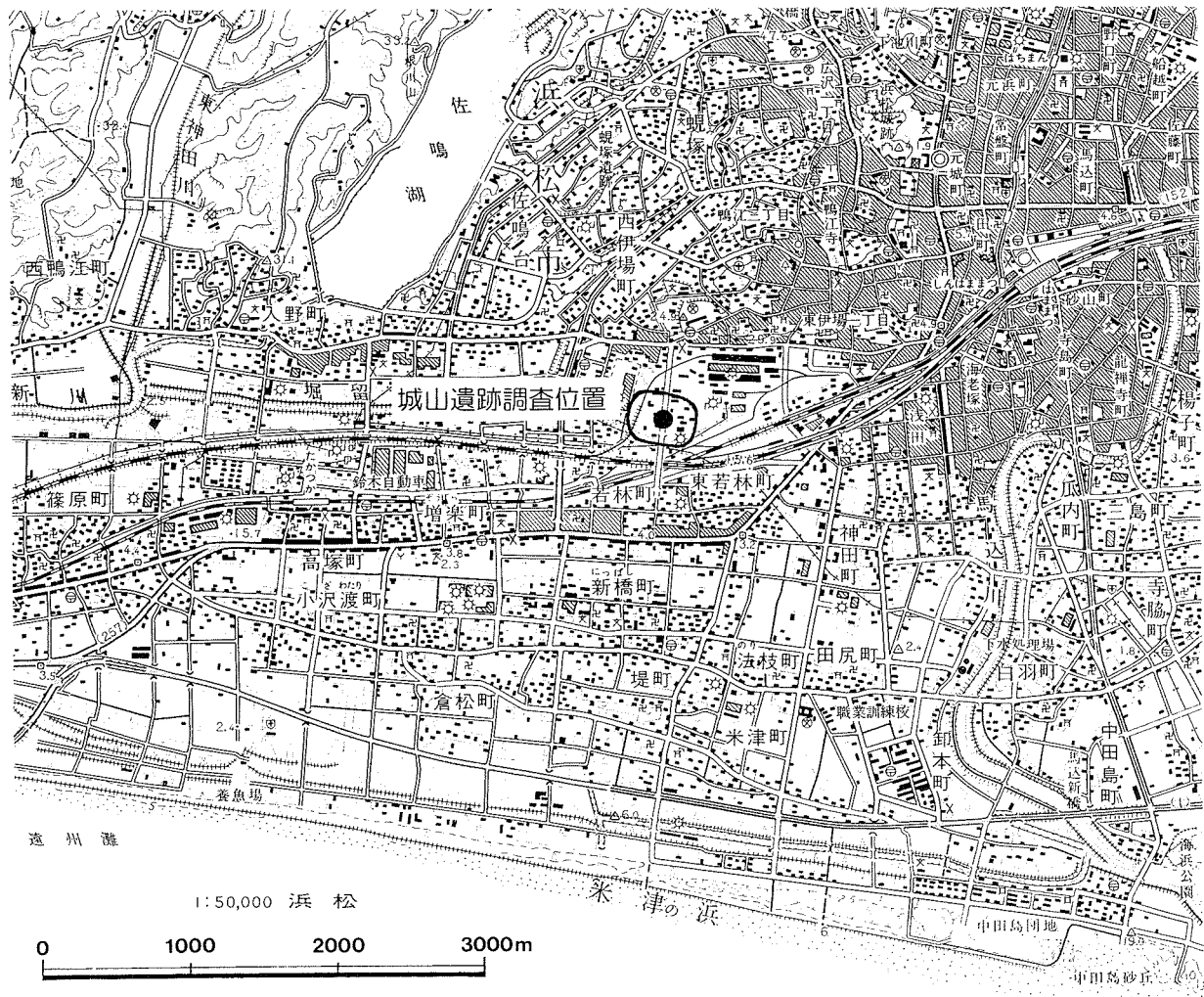
2. 調査に至る経緯

浜松市若林町の東海旅客鉄道株式会社敷地において、地下給油タンクの取替工事が計画され、文化財保護法第93条第1項による届出書が、静岡県教育委員会あてに提出された(平成17年5月30日付)。事業地は、城山遺跡が及んでいる範囲に位置していたため、事業計画と照合したところ、工事が埋蔵文化財確認面(遺構面)より下にまで及ぶと判断された。そこで埋蔵文化財の取扱いについて協議を行った結果、発掘調査は浜松市教育委員会の指導の下、財団法人浜松市文化振興財団が実施し、調査にかかわる必要経費は東海交通機械株式会社が負担することとなった。(第3図)

3. 調査経過

- 8月8日 発掘器材を搬入した。重機(バックホー)により盛土を除去した。
- 8月9日 重機により発掘調査区内の北半を掘削した。発掘調査区の隣接地にベンチマークを移動するとともに、調査区及びその周辺を測量し、平面図を作成した。
- 8月10日 遺構検出作業を開始した。
- 8月11日 重機により発掘調査区内の南半を掘削した。標高値0.05m前後の検出面から遺構が検出され、平面図を作成した。遺構写真を撮影した。
- 8月12日 発掘調査区の中央部を南北に長いトレンチを設定して、人力により掘削し、東壁面の土層断面図を作成した。遺跡の基盤層及び弥生時代の遺構の有無を確認するため、中央トレンチの南端部を重機により掘り抜いた。完掘写真を撮影した。発掘器材を撤収した。





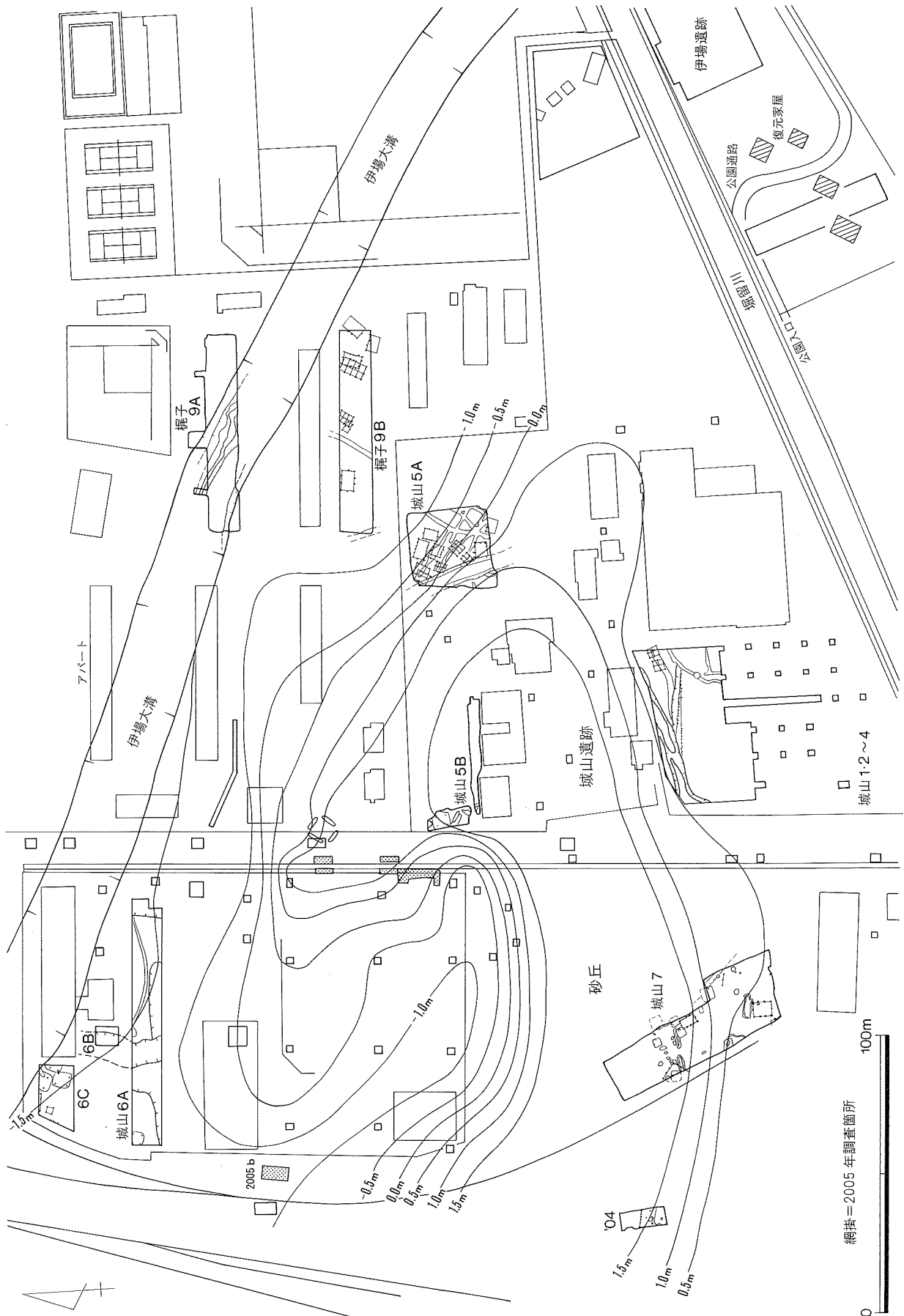
第1図 城山遺跡位置図

遺跡名	調査名称	調査期間	調査面積	原因	調査主体
城山遺跡	1次	1948年8月		ボーリングによる探査	國學院大學
	2次	1949年12月1日～10日		試掘調査	國學院大學
	3次	1977年11月18日～12月26日	400m ²	埋立工事に先立つ範囲確認調査	可美村教育委員会
	4次	1980年1月8日～3月30日	1000m ²	埋立工事	可美村教育委員会
	5次	1980年7月21日～9月23日	700m ²	埋立工事	可美村教育委員会
	6次	1992年4月～6月・11月	800m ²	遊戯場建設工事	(財)浜松市文化協会
	7次	1995年8月1日～11月30日	1400m ²	社員寮建設工事	(財)浜松市文化協会
	市下水	1999年1月20日～3月25日	1340m ²	JR東海新幹線検修庫新設工事	(財)浜松市文化協会
	2004	2000年12月4日～8日	88m ²	浜松市下水道工事	浜松市教育委員会
	2005	2004年7月20・21日	125m ²	JR東海検修庫・検修庫内ピット新設工事	(財)浜松市文化協会
	2005 a	2004年12月9日・2005年2月2日	82m ²	社員寮建設工事	浜松市教育委員会
	2005 b	2005年8月8日～12日	45m ²	JR東海地下給油タンク取替工事	(財)浜松市文化振興財団

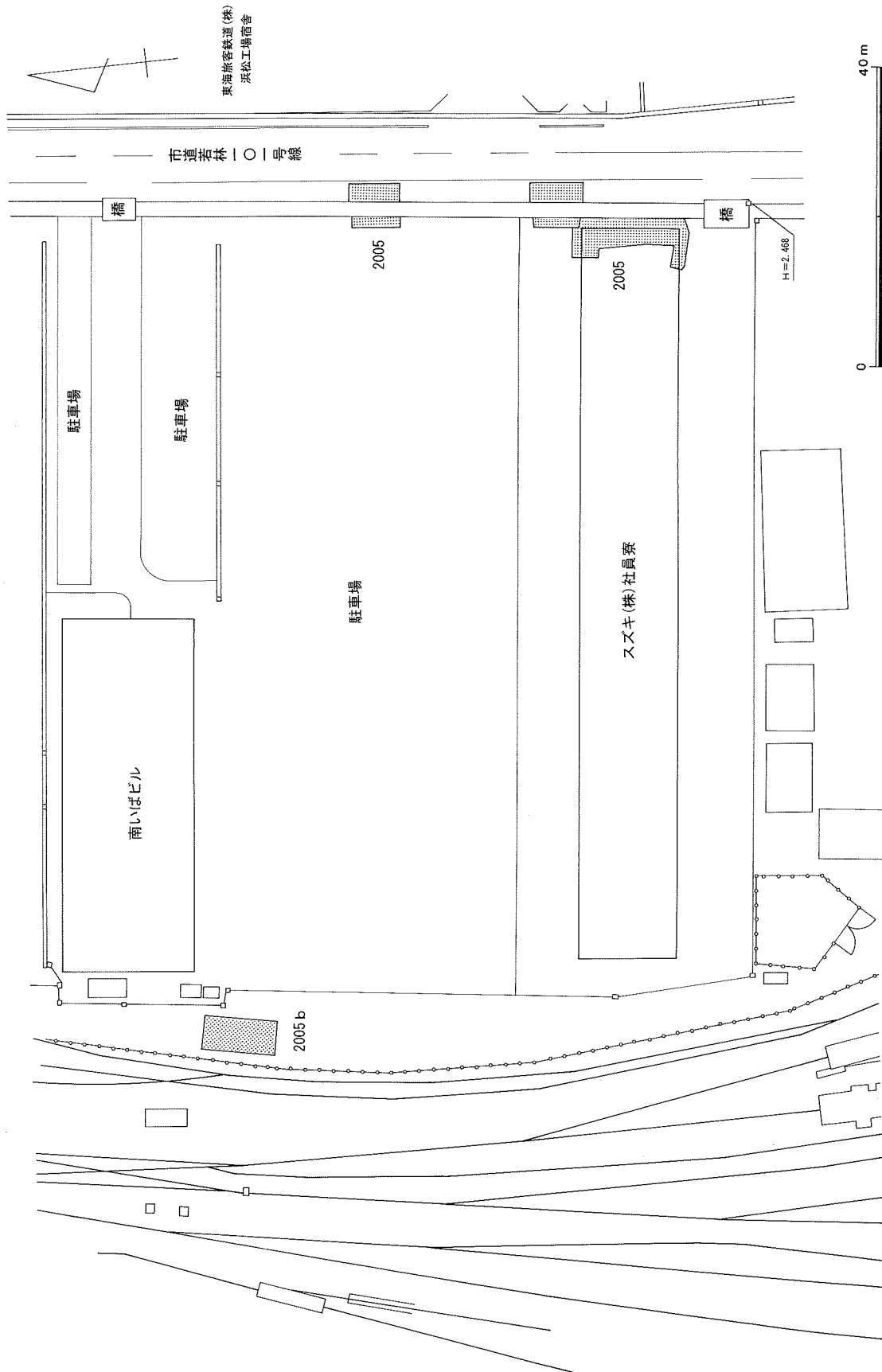
城山遺跡発掘調査一覧表

遺跡名	調査名称	発行者	発行年・月	報告書名
城山遺跡	1次	浜松市役所	1953・9	『伊場遺跡－西遠地方に於ける低地性遺跡の研究－』
	2次	可美村教育委員会	1978	『浜名郡可美村城山遺跡範囲確認調査概報』
	3・4次	可美村教育委員会	1981・3	『城山遺跡発掘調査報告書』
	5次	(財)浜松市文化協会	1993・12	『城山遺跡Ⅴ』
	6次	(財)浜松市文化協会	1997・3	『城山遺跡Ⅵ』
	7次	(財)浜松市文化協会	2000・3	『城山遺跡Ⅶ』
	市下水	浜松市教育委員会	2001・3	『城山遺跡(市下水)』
	2004	(財)浜松市文化協会	2004・9	『城山遺跡2004』
	2005	浜松市教育委員会	2005・3	『城山遺跡(2005)』
	2005 b	(財)浜松市文化振興財団	2005・12	『城山遺跡(2005 b)』

城山遺跡関係報告書一覧表



第2図 調査区周辺の埋没砂丘等高線図



第3図 調査位置図

8月12日～12月10日 遺物洗浄・注記等整理作業を実施した。報告書用の図版等を作成し、本発掘調査の報告書を作成した。

4. 調査の成果

(1) 層位

今回の調査では、第4図に示したように17の土層堆積が確認できた。ここでは、上から順に1層から17層とする。

1層 盛土で、現在の地表面からの深さが約2.2mである。

2層 灰緑色粘土層で、中世以降の水田や蓮池の耕作層と、その床土である。

3層 暗褐色粘土層で、6～7世紀の生活面（平均標高0.05m）から遺構（土壇、溝、小穴）が検出された。これらの遺構は城山遺跡6次調査区からの続きと考えられるが、基盤が低く集落の周辺部と思われる。

4層 青灰色シルト層である。

次の5～12層は弥生時代の遺構の有無を確認するため、発掘調査区の中央部を南北に長いトレンチを設定して、人力により掘削し、東壁面の土層観察を行った。

5層 暗灰色粘土層の均一層で、弥生時代後期の土器または土師器の破片がごくわずかに検出された。

6層 青灰色粘土層である。

7層 暗灰色粘土層である。

これらの4～7層は伊場C層（3～5世紀）と呼ばれ、基本的には無遺物層であるが、今回のように、わずかな土器片が検出されることもある。

8層 黒色粘土層で、伊場D層（1～3世紀）と呼ばれる。小ブロックを含む有機質土層で、弥生時代中期の土器が検出された。この8層と先の7層は2～3世紀頃に水田として使用のため攪拌が認められた。

9層 カワゴ平軽石を含む層で、この地域に広く認められる約2,900年前（縄文時代後期）の火山灰の堆積層である。弥生時代中期における水田耕作は、この層にまで及んでいるため、攪拌が認められた。

10層 暗黒色粘土層で、分解したピート層である。

11層 ややシルト質の白色粘土層で、ラナミ状に植物遺体層を含んでいた。

12層 暗茶黒色粘土層で、ラナミ状の堆積層である。

次の13層より下は基盤層の堆積状況を確認するため、重機により掘り抜いて土層観察を行った。

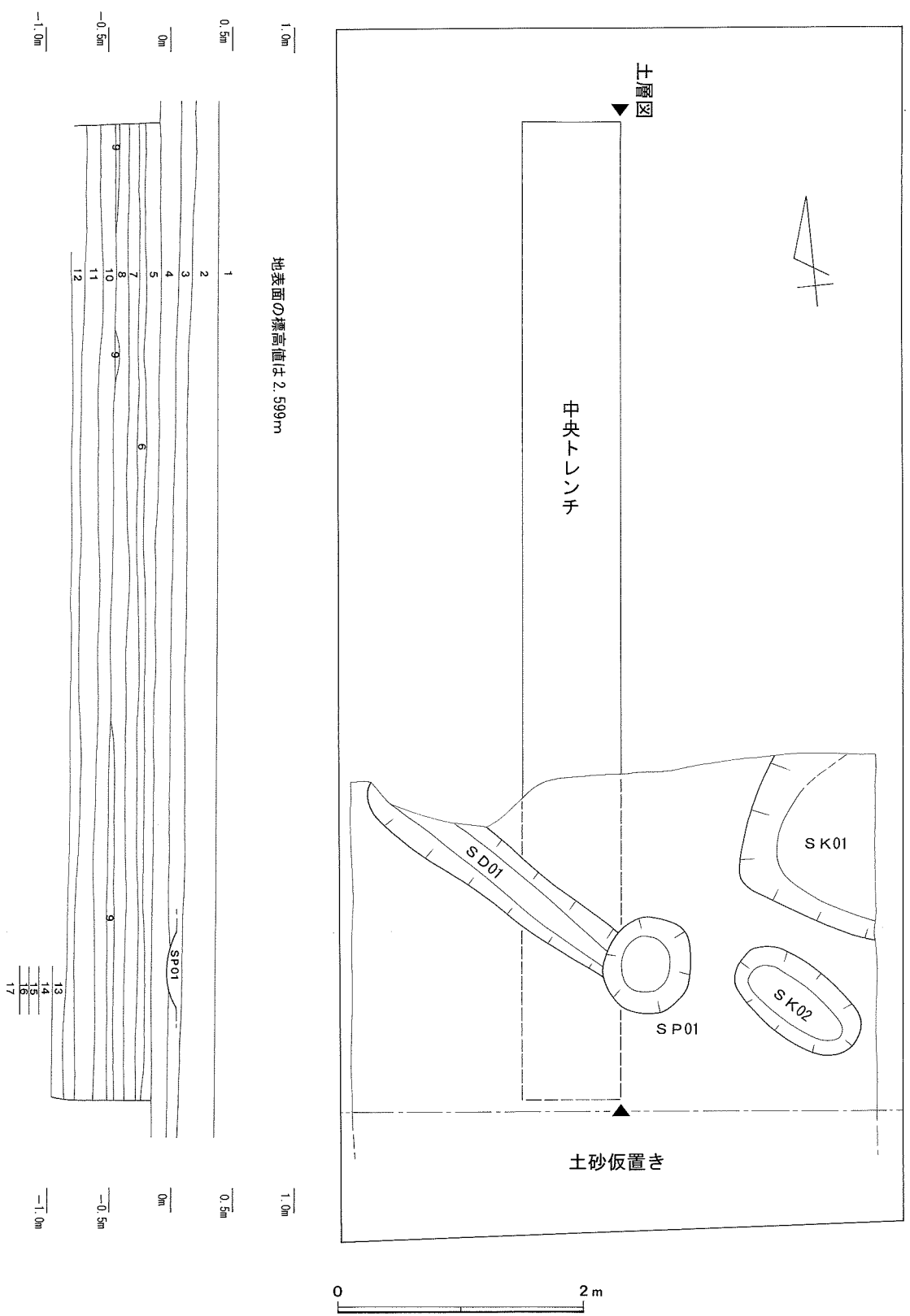
13層 やや茶色の暗黒色粘土層である。

14層 黒灰色粘土層である。

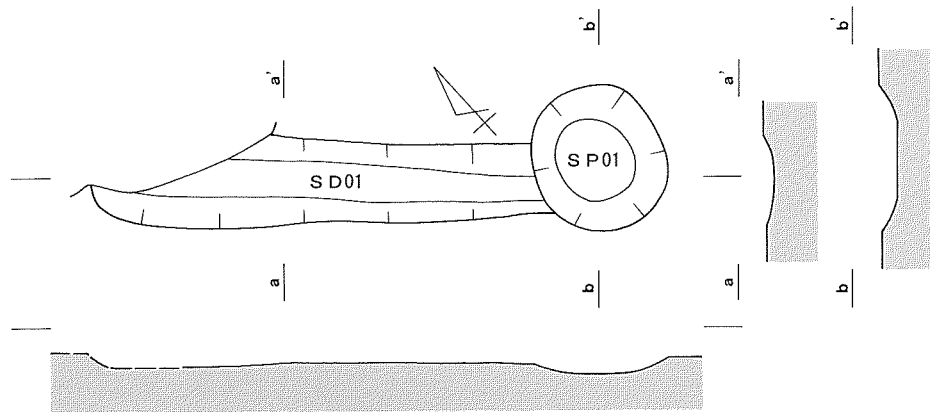
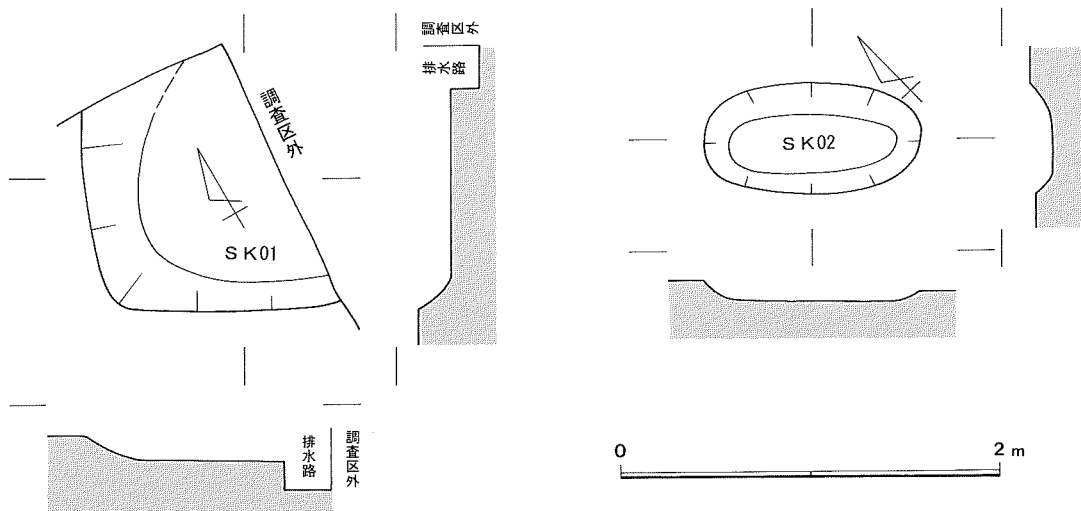
15層 暗黒色粘土層である。

16層 白灰色砂と黒灰色粘土の互層である。

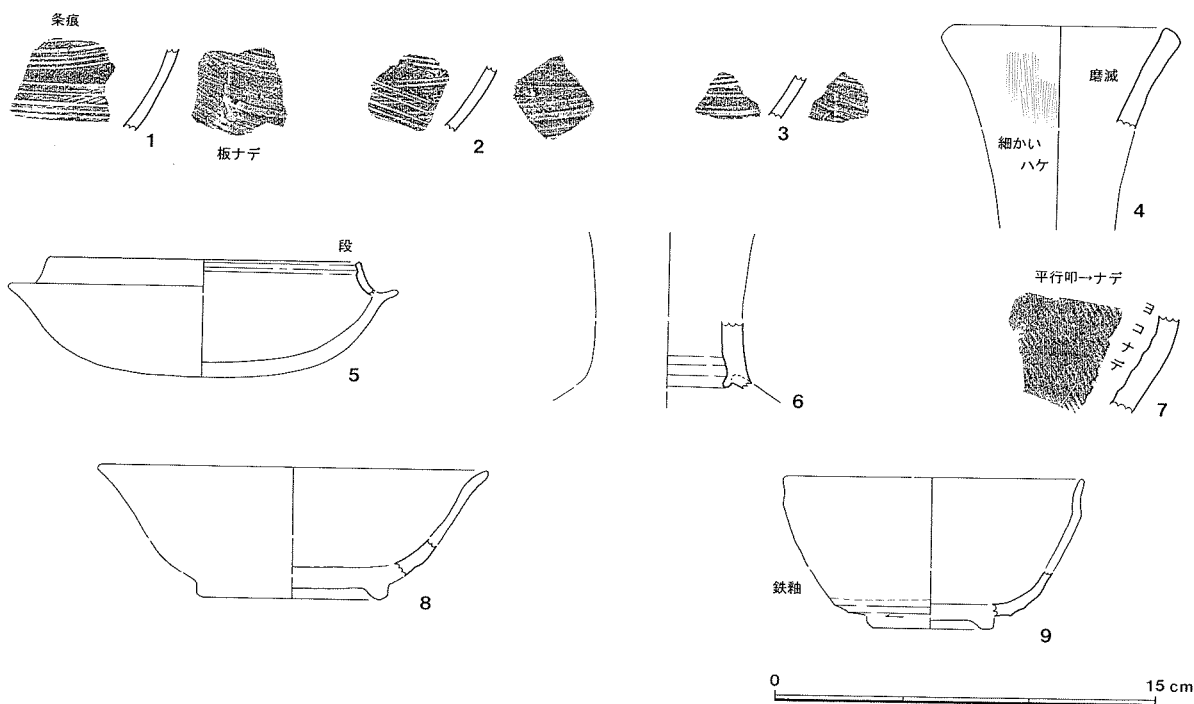
17層 灰色の河砂層で、基盤層を成す砂丘砂層である。この層の上面は標高-1.21mで、過去の調査結果と照合すると、砂丘の末端で湿地に移行する部分と推定される。



第4図 調査区全体図・土層図



第5図 遺構実測図



第6図 出土遺物実測図

(2) 検出遺構 (第5図)

今回の調査で検出された遺構の底面の標高値は -0.12m ～ $+0.01\text{m}$ で、暗褐色粘土層から検出された。これらは6～7世紀の遺構で、北東に位置する城山遺跡6次調査区からの続きと考えられるが、生活面が低く集落の周辺部と思われる。

S K 01 発掘区外にまで及び、長さは不明である。深さは 0.20m 、遺構の底面標高は -0.12m である。

S K 02 長径が 1.13m 、短径が 0.58m で、平面は長丸形である。深さは 0.12m 、遺構の底面標高は -0.07m である。

S P 01 長径が 0.79m 、短径が 0.70m で、平面は楕円形である。深さは 0.11m 、遺構の底面標高は -0.05m である。

S D 01 長さが 3.06m 、幅が 0.48m 、深さは 0.06m で、断面は皿状である。

(3) 出土遺物 (第6図)

1～3 弥生時代中期中葉、瓜郷様式の壺胴部下半の破片で、3点は同一個体である。外面は条痕、内面は板ナデで仕上げられている。胎土に角張った石英・長石・雲母を含むことから東三河からの搬入品と推定される。

4 弥生時代中期後葉の壺口縁部で、細長く、口唇部に端面がある。色はうす茶色で、外面は細かいハケで仕上げ、内面は磨滅している。白岩様式(もしくは角江様式)の新しい段階のものである。

5 6世紀前半、古墳時代後期の須恵器で、坏身口縁部の立ち上り部分である。口唇部内面には段がある。色は濃灰色である。

6 7世紀、古墳時代後期後半(飛鳥時代)の須恵器で、長頸壺頸部の破片である。色が明灰白色であることから湖西窯で焼かれた製品と推定される。

7 7世紀、古墳時代後期後半(飛鳥時代)の須恵器で、壺胴部下半の破片である。外面は平行叩きの後にナデ仕上げ、内面は全体をヨコナデで仕上げている。色が白灰色であることから湖西窯で焼かれた製品と推定される。

8 13世紀、鎌倉時代の山茶碗胴部の破片である。色が明灰白色であることから渥美・湖西産と推定される。

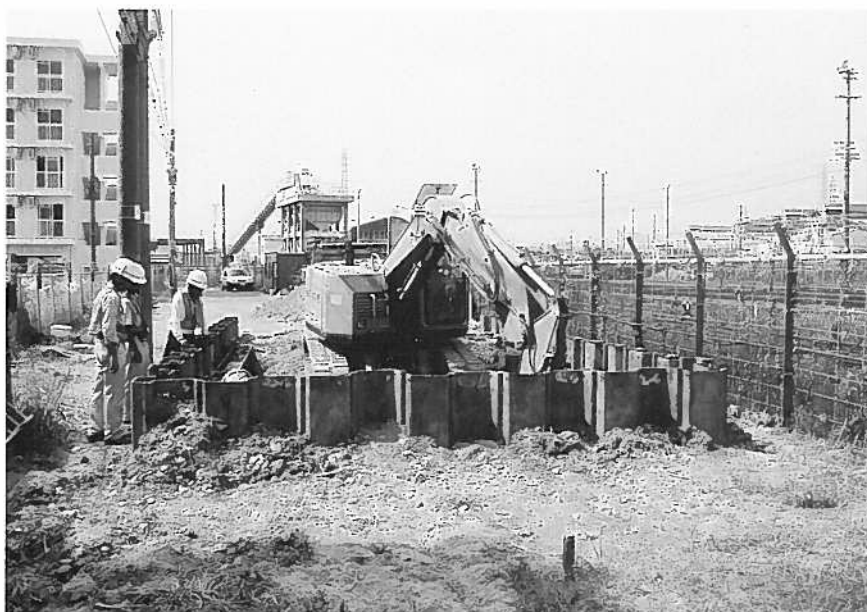
9 16～17世紀、中世末～近世の瀬戸・美濃の天目茶碗胴部の破片である。色は明灰白色で、鉄釉が施されている。

5. まとめ

- ・ 6～7世紀の遺構が検出された。今回の遺構は、調査区の北東に位置する城山遺跡6次調査区からの続きと思われるが、生活面は低く集落の周辺部と思われる。
- ・ 6～7世紀の遺構面の下には、2～3世紀頃の水田耕作による攪拌層が確認された。そこからは弥生時代中期の土器が検出された。
- ・ 弥生時代中期の水田より下は、縄文時代後期に堆積したカワゴ平軽石を含む層がある。弥生時代中期の水田耕作は、この層にまで及んでいた。
- ・ 標高 -1.21m で砂丘砂層が確認された。過去の調査結果に照らし合わせると、調査地点は砂丘の末端で、湿地に移行する部分と推定される。

写真図版 1

A. 調査区全景写真
(北より)



B. 調査区 (南東より)

表土掘削工事



C. 調査区 (北より)

表土掘削工事



写真図版 2



A. 遺構検出作業（北より）

古墳～奈良時代面

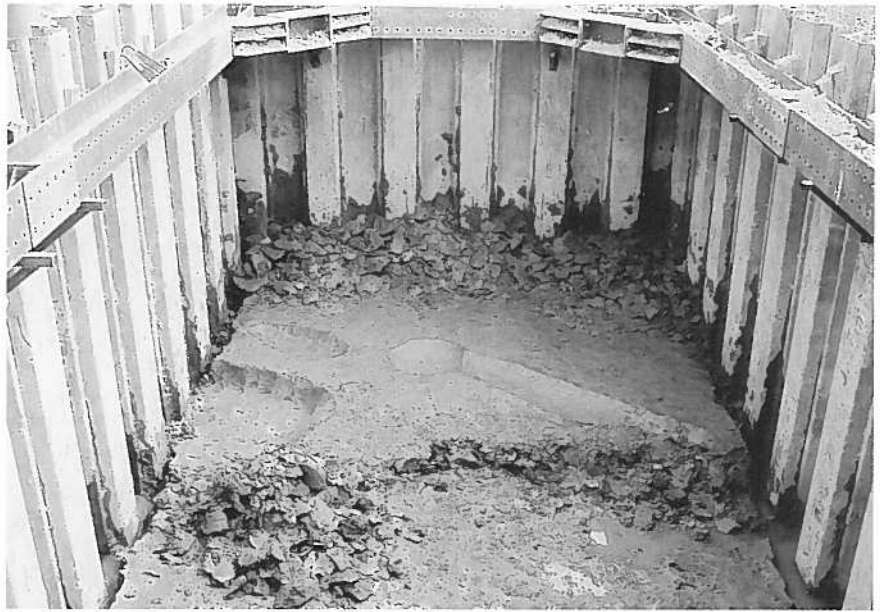


B. 中央トレンチ掘削作業（北東より）

弥生時代水田層

写真図版 3

A. 古墳～奈良時代の遺構群（北より）



B. 古墳～奈良時代の遺構群（南より）



C. 古墳～奈良時代の遺構面完掘状況（北より）



写真図版 4



A. 調査区完掘状況（南より）



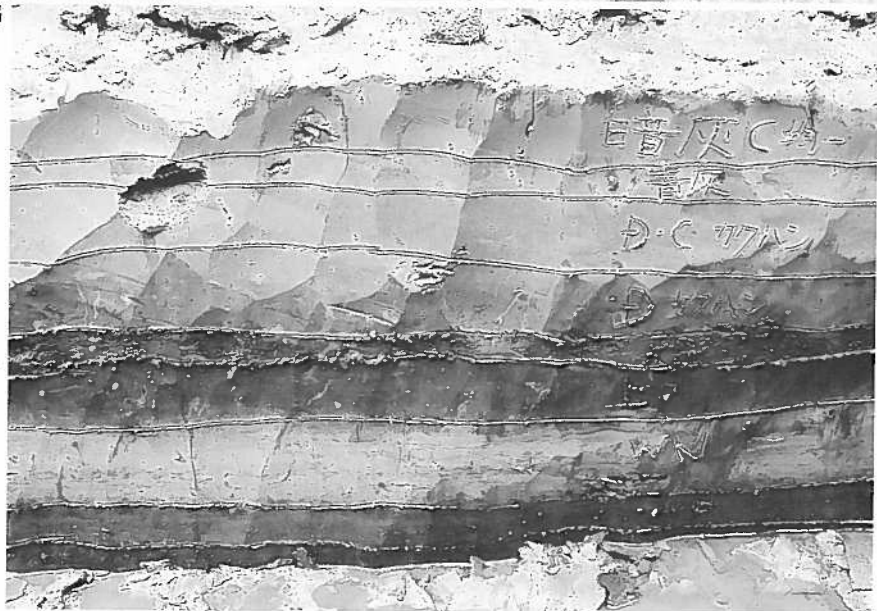
B. 中央トレンチ（弥生水田層確認トレンチ）全景（北より）

写真図版 5

A. 中央トレンチ東壁土層
(北西より)



B. 中央トレンチ東壁上層
堆積状況 (西より)



カワゴ平軽石 ▶

C. 主要出土遺物



報告書抄録

書名(ふりがな)	城山遺跡(2005b)(しろやまいせき・2005びー)							
編著者名	村松聡一郎							
編集機関	浜松市教育委員会 生涯学習部生涯学習推進課 〒430-0917 浜松市常盤町306-5イーステージ浜松オフィス棟5階							
発行機関	財団法人 浜松市文化振興財団 〒430-7790 浜松市板屋町111-1							
発行年月日	2005年12月10日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
しろやまいせき 城山遺跡	静岡県浜松市 若林町地内	22202	22-1	34度 41分 32秒	137度 42分 30秒	2005年 8月9日 ~12日	45 m ²	JR東海 地下給油 タンク 取替工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
城山遺跡	水田 集落	弥生時代中期 古墳~奈良時代	水田 土塋・溝・小穴	弥生土器 須恵器・土師器		敷智郡衙周辺部		

しろやま
城山遺跡(2005b)

2005年12月10日

発行 財団法人 浜松市文化振興財団

編集 浜松市教育委員会

生涯学習部生涯学習推進課

〒430-0917

静岡県浜松市常盤町306-5

イーステージ 浜松オフィス棟5階

TEL 053-457-2466

印刷 中部印刷株式会社